



航空用エンジンと「ものづくり」

本年4月、株式会社IHI航空宇宙事業本部長に就任いたしました石戸 利典です。石戸で「せきど」と読ませるのは出身の富山県八尾町の郊外に「石戸(せきど)」という地名があり、先祖がそこから出てきたからで「せきど」と読む家は全国でも私の親戚の数軒しかありません。ちなみに八尾町はご存知の方もいるかと思いますが「風の盆 おはら」の八尾町です。

さて日本の民間航空エンジン業界に携わるものとして記念すべきイベントが昨年11月に行われました。V2500エンジンの4,000台納入記念式典です。V2500エンジンの開発は1983年末に共同出資会社IAEを創設して開始され、様々な苦難を克服し1988年6月にFAAの型式承認を取得、1989年からAirbus社A320に搭載されて就航、当初皆で事業目標に掲げていた4,000台の出荷を約20年で達成したものです。記念式典には先輩方も数多くお見えになり、会話が弾みました。V2500は海外、国内ともパートナーシップが見事に結実したプログラムであったと言えます。V2500プログラム以降IHI及び日本の各社は大型エンジンから小型エンジンまで種々の国際共同事業に参画し日本の航空エンジン産業は世界の中で重要な役割を果たすようになってきています。

エンジンの技術の方もこの約25年で大きく進歩しました。圧縮機やタービンの効率などそろそろ限界に近づいていると思われていましたが、あらゆる分野で新たな技術革新が進み、その競争は止まる所を知りません。これが航空エンジン産業の特徴であり、投資回収に時間が掛かることと相俟って、新興国がなかなか追い付けない理由になっています。この技術革新に向けての継続的な努力は容易ではありませんが、国のご理解・サポートも頂き我が国の力を発揮して世界に貢献し、若いエンジニアにもどんどん入ってきてもらいたいと思っています。

ところで航空エンジンの事業ではまさに「ものづくり力」が競争力を左右します。そもそも特殊な合金を使い、精密な鍛造、鋳造が要求され、さらに難削材を精密加工しなければなりません。防衛用エンジンの製造では国内の素材メーカーさん、部品メーカーさんと一緒に努力をしてきました。民間エンジン用の素材や部品でも個々には世界レベルの技術、コストに挑戦頂いて来ています。それでも現実には民間エンジン用の素材や機器の相当部分は海外メーカーから輸入しています。海外の素材メーカーや部品・機器メーカーの方で戦略的なM&Aが進み、その競争力を梃子に彼らが世界中に素材や機器を販売する状況となっています。「ものづくり力」は皆様ご存知のように設計、生産技術・加工、サプライヤー（含む素材メーカー）が一体となって摺り合わせを行い、時には共同で技術を開発する中で確立され強化されます。その意味でやはり技術をお持ちの国内の素材、機器メーカーさんと一緒にValue Chainを確立し、我が国の「ものづくり力」を継続的に伸ばしていく姿が大切であると思っています。この思いも込めて平成20年の7月に「航空用大型素材鍛造プレスの国内設置に関する研究会」を関係者の皆様と一緒に立ち上げさせて頂き、現在は開発準備委員会で事業化に向けた最終的な検討を進めさせて頂いています。経済産業省始め関係機関の方々には心強いご支援を頂いています。

日本の航空産業はその国民性に基づく優れた品質と技術への挑戦、まさに「ものづくり力」を大切にすることでここまで伸びて来ましたし、それはこの先数十年変わることはないと思います。いえ、まさに複合材等新たな技術分野への挑戦が求められ、環境要請から従来の枠を超えた連携なども求められるこれからの時代、日本はもっともっと伸びるポテンシャルを有していると信じるものです。皆様のご支援を引き続き宜しくお願いいたします。